



# COUNT BASIE ROULETTE COLLECTION

菅原正二 (ジャズ喫茶「ベイシー」店主) 監修



# カウント・ベイシー ルーレット・コレクション

## Count Basie Roulette Collection

ビッグ・バンド・ジャズの帝王:カウント・ベイシーのピークとも言える1957年~62年=ルーレット時代の名盤を最新リマスターリングで一気にリリース!

- 海外から新たに取り寄せたオリジナル・マスターを元にした、菅原氏の監修による最新リマスターリング
- ベイシーのすべてを知り尽くした菅原氏ならではの作品ごとの書き下ろしショートコラム掲載
- 初CD化作品多数
- 2015年9月2日発売 (全24タイトル)
- 各1,400円+税 / 2枚組:2,400円+税
- オリジナル英文ライナーの対訳 / 解説 / 歌詞付 (一部作品除く)



# 粹にスウィングするジャズの真髄 ～ルーレットのカウント・ベイシーは最高だ!～

菅原正二(ジャズ喫茶「ベイシー」店主)

この度、ワーナーミュージックから「ルーレット・レーベル時代のカウント・ベイシー」が一挙にまとめて発売されることになった。このような試みはまことに珍しいことであり、快挙といっていだらう。

今さら申すまでもなく、1937年に正式に結成されたカウント・ベイシー・オーケストラは「デッカ」「クレフ(～ノグラン、ヴァーヴ)」レーベル等に数々の名盤を遺したのち、1957年から1962年までの5年間で「ルーレット・レーベル」と専属契約を結んでいる。そして、この時代のベイシー・バンドのサウンドが少し変わった。モダンになったとか新鮮になったとか人はいふ。時代のせいもある。ベイシー・バンドに対する世間の人気もここでふたたびグッと上がっている。

つまり、このときバンドは第何期目かの“黄金時代”を築き上げた。それはそうだろう。

まずメンバーが物凄い。トランペット・セクションには、サド・ジョーンズ、ジョー・ニューマン、スヌーキー・ヤング、ウェンデル・カリー。トロンボーン・セクションにはヘンリー・コーカー、アル・グレイ、ベニー・パウエル。サクソ・セクションにはマーシャル・ロイヤル、フランク・ウェス、フランク・フォスター、エディ・ロックジョウ、デイヴィス、チャーリー・フォックス。そしてリズム・セクションには、カウント・ベイシーのピアノ、フレディ・グリーン、エディ・ジョーンズのベース、ソニー・ペインのドラムス、と、書き上げているだけで身震いがするオールスター・ビッグ・バンドだ。

つまり、猛烈にスウィングしながら、そこにモダンなソロがちりばめられていて、いつ聴いても新鮮なのだ。

テナーサクソにレスター・ヤングが居たころから元々ベイシー・バンドはモダン・ジャズの温床ではあったのだが、ルーレットに移籍してからはソロを短くして、曲全体を簡潔、スマートに仕上げるようになった。これは当時、作・編曲者の主軸となったニール・ヘフティの力量に負うところが大きかったのはいうまでもなからう。ルー

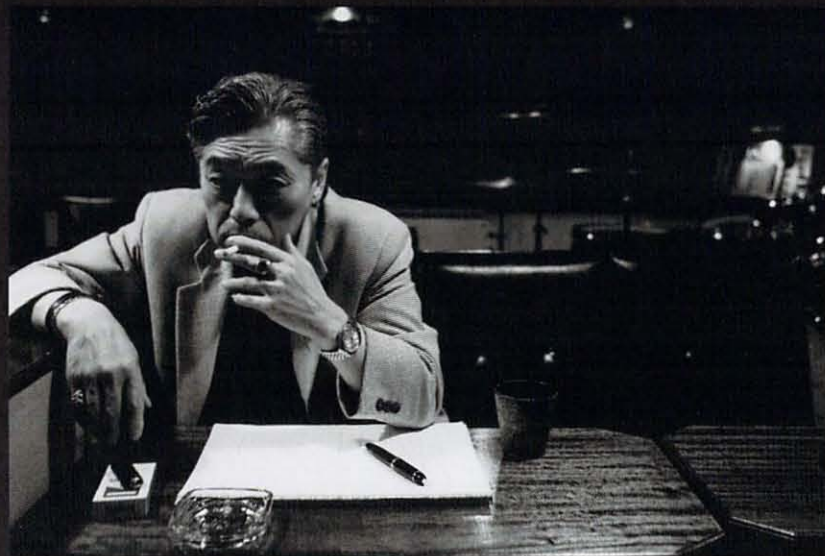


Photo: Koji Onodera

COUNT BASIE  
ROULETTE  
COLLECTION

レット移籍第一作目の「BASIE」(通称“アトミック・ベイシー”)は全曲ニール・ヘフティの書き下ろしで、これらは以後不滅のベイシー・ナンバーとして演奏され続けていくことになった。

それに加え、サド・ジョーンズやフランク・フォスターの作品もベイシーは好んで取り上げてきたし、昔からのアーニー・ウィルキンスや、新しいクインシー・ジョーンズといったシャれたナンバーも気に入って自分のナンバーとしているところがカウント・ベイシーという人の人柄を感じさせる。

カウント・ベイシー楽団には自由があった。たとえばフランク・ウェスがベイシーに向かって「フルートを吹いていいか?」といったら「やってみろ」といい、以後それが定番となった話は有名だ。

浮き沈みが多いビッグ・バンド界で、デューク・エリントン楽団はともかくとして、カウント・ベイシー・オーケストラが驚異的な長寿を達成したのはには訳がある。それは時代によって少しずつの変化を見せながらも、一貫して変わらず、常に「スウィング」することを忘れなかったからだ。

時代が変わり、人々が変わっても、スウィングさえしていればカウント・ベイシーはステージの上でいつもニンマリとしていた。そのスピリッツが時を超えた。

われわれはいつの時代のカウント・ベイシー楽団の演奏もレコードで聴くことができる。

そんななかで今「ルーレット」のカウント・ベイシーの演奏を誰でもまとめて聴けるチャンスがこの企画で到来した。

そこには忘れかけていたこと、あるいは新しい発見が待っているかもしれない。

粹にスウィングするジャズの真髄を、ルーレットのカウント・ベイシー楽団が高いレベルであらためて教えてくれるだろう。

## ■ 菅原正二(すがわらしょうじ)

1942年岩手県生まれ。早稲田大学在学中、ハイソサエティ・オーケストラでバンド・マスター、ドラマーとして活躍。TBSラジオ主催の「全国大学対抗バンド合戦」で3年連続全国優勝。1967年には、ビッグ・バンドとして日本初の米国ツアーを敢行した。「チャーリー・石黒と東京パンチョス」のドラマーを務めたのち、1970年、郷里の一閑に戻り、ジャズ喫茶「ベイシー」を開店。ジャズ・オーディオに独自のスタイルを確立し、幾多のジャズ・ジャイアンツやさまざまなジャンルの人物が世界中から「ベイシー」に集う。「スウィフティ」というニックネームは、親交の深かった故カウント・ベイシーに命名されたもの。書籍、新聞、雑誌などへの寄稿が多数あり、著書に「ジャズ喫茶「ベイシー」の選択～ほくとジムランの酒とバラの日々」(駒草出版)、「聴く鏡」I「聴く鏡II」(ステレオサウンド社)がある。



▲ 海外から届いたマスター音源をマスタリング・スタジオで確認する菅原氏

Photo: Koji Onodera

第2期黄金時代を迎えたペイシー楽団による移籍第1弾。気鋭のメンバーによる斬新なソロとニール・ヘフティの編曲で強烈にスウィング。ビッグ・バンド史上、熾然と輝く一大傑作。



「アトミック・ペイシー」

Basie

- ①レッド・バンクから来た男／②デュエット／③アフター・サバー／④フライト・オブ・フーバー／⑤ダブル・オー／⑥ティ・ザ・ワード／⑦ワリー・バード／⑧ミッドナイト・ブルー／⑨スプランキー／⑩ファンタジー／⑪ル・ダールン

WPCR-16582  
MONO

カウント・ペイシー (p)、ウェンデル・カリ、スヌーキー・ヤング、サド・ジョーンズ、ジョー・ニューマン (tp)、ヘンリー・ココカー、アル・グレイ、ベニー・パウエル (tb)、マッシュル・ロイヤル (cl, as), フランク・ウェス (as, ts, fl), フランク・フォスター (ts, arr), エディ・ロックジョウ、ティ・ウィズ (ts), チャーリー・フォークス (bs), フレディ・グリーン (g), エディ・ジョーンズ (b), ソニー・ヘイン (ds), ニール・ヘフティ (arr), ジミー・マンティ (arr)

【録音】①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿ 1957年10月21日 ニューヨーク / ㉠㉡㉢㉣㉤㉥㉦㉧㉨㉩㉪㉫㉬㉭㉮㉯㉰㉱㉲㉳㉴㉵㉶㉷㉸㉹㉺㉻㉼㉽㉾㉿ 1957年10月22日 ニューヨーク

名手ニール・ヘフティのスコアに彩られた、モダン・ペイシーの名作。ユーモラスなジャケットと、(キュート)の名演でも知られる人気盤が待望の復刻!



「キュート ペイシー・プレイズ・ヘフティ」

Basie Plays Hefti

- ①ハズ・エニワン・ヒア・シーン・ペイシー／②キュート／③ペンシヴ・ミス／④スルー・フット／⑤イッツ・オーブリー・ナイス・トゥ・ビー・ウィズ・ユー／⑥スケート／⑦ア・リトル・テンポ、プリーズ／⑧レイト・デイト／⑨カウント・ダウン／⑩ハク・ア・ホーンズ／⑪ポニー・テイル

WPCR-16583  
STEREO

カウント・ペイシー (p)、ウェンデル・カリ、スヌーキー・ヤング、サド・ジョーンズ、ジョー・ニューマン (tp)、ヘンリー・ココカー、アル・グレイ、ベニー・パウエル (tb)、フランク・ウェス (as, fl), マッシュル・ロイヤル (as), ビリー・ミッチェル (ts), フランク・フォスター (ts), チャーリー・フォークス (bs), フレディ・グリーン (g), エディ・ジョーンズ (b), ソニー・ヘイン (ds), ニール・ヘフティ (arr)

【録音】①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿ 1958年4月3日 ニューヨーク / ㉠㉡㉢㉣㉤㉥㉦㉧㉨㉩㉪㉫㉬㉭㉮㉯㉰㉱㉲㉳㉴㉵㉶㉷㉸㉹㉺㉻㉼㉽㉾㉿ 1958年4月4日 ニューヨーク / ㉠㉡㉢㉣㉤㉥㉦㉧㉨㉩㉪㉫㉬㉭㉮㉯㉰㉱㉲㉳㉴㉵㉶㉷㉸㉹㉺㉻㉼㉽㉾㉿ 1958年4月14日 ニューヨーク

クインシー・ジョーンズがペイシー楽団のためにスコアを用意した記念すべき第1作。カンザス・シティ・スタイルのビートに厚みのあるアンサンブルに加え、シンプルで自然なフィーリングを維持した名作。



「ワン・モア・タイム ペイシー・プレイズ・クインシー」

Basie One More Time

- ①レナとレニーのために／②ラット・レース／③クイン／④ミート・BB (ベニー・ベイリー)／⑤ビッグ・ウォーク／⑥スクエア・アット・ザ・ラウンドテーブル／⑦アイ・ニース・トゥ・ビー・ビド・ウィズ／⑧ジェシカ・デ・イ／⑨真夜中の太陽は沈まず／⑩マトニック

WPCR-16584  
STEREO

カウント・ペイシー (p)、ウェンデル・カリ、スヌーキー・ヤング、サド・ジョーンズ、ジョー・ニューマン (tp)、アル・グレイ、ヘンリー・ココカー、ベニー・パウエル (tb)、フランク・ウェス (as, fl), マッシュル・ロイヤル (as), ビリー・ミッチェル (ts), フランク・フォスター (ts), チャーリー・フォークス (bs), フレディ・グリーン (g), エディ・ジョーンズ (b), ソニー・ヘイン (ds), クインシー・ジョーンズ (arr)

【録音】①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿ 1958年12月18日 ニューヨーク / ㉠㉡㉢㉣㉤㉥㉦㉧㉨㉩㉪㉫㉬㉭㉮㉯㉰㉱㉲㉳㉴㉵㉶㉷㉸㉹㉺㉻㉼㉽㉾㉿ 1958年12月19日 ニューヨーク / ㉠㉡㉢㉣㉤㉥㉦㉧㉨㉩㉪㉫㉬㉭㉮㉯㉰㉱㉲㉳㉴㉵㉶㉷㉸㉹㉺㉻㉼㉽㉾㉿ 1958年12月20日 ニューヨーク / ㉠㉡㉢㉣㉤㉥㉦㉧㉨㉩㉪㉫㉬㉭㉮㉯㉰㉱㉲㉳㉴㉵㉶㉷㉸㉹㉺㉻㉼㉽㉾㉿ 1959年1月24日 シカゴ

最強のメンバーを誇ったペイシー楽団が、サド・ジョーンズ、フランク・フォスター、フランク・ウェスらに拠出したメンバーの作品を取り上げた意欲作。おなじみの名手がドライヴする演奏を繰り広げた隠れた名盤。



「チェアマン・オブ・ザ・ボード」

Chairman Of The Board

- ①ブルース・イン・ホス・フラット／②女王陛下／③セウ・イン・C／④カンザス・シティ・シャウト／⑤スピーキング・オブ・サウンス／⑥T.V. タイム／⑦ア・ミー／⑧サ・ティ・コン／⑨ア・ブ・ム・ストリート／⑩マット・アンド・ジェフ

WPCR-16585  
STEREO

カウント・ペイシー (p)、ウェンデル・カリ、スヌーキー・ヤング、サド・ジョーンズ、ジョー・ニューマン (tp)、ヘンリー・ココカー、アル・グレイ、ベニー・パウエル (tb)、フランク・ウェス (as, ts, fl), マッシュル・ロイヤル (as, cl), ビリー・ミッチェル、フランク・フォスター (ts), チャーリー・フォークス (bs), フレディ・グリーン (g), エディ・ジョーンズ (b), ソニー・ヘイン (ds)

【録音】①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿ 1958年3月4日 シカゴ / ㉠㉡㉢㉣㉤㉥㉦㉧㉨㉩㉪㉫㉬㉭㉮㉯㉰㉱㉲㉳㉴㉵㉶㉷㉸㉹㉺㉻㉼㉽㉾㉿ 1958年4月28日 ニューヨーク / ㉠㉡㉢㉣㉤㉥㉦㉧㉨㉩㉪㉫㉬㉭㉮㉯㉰㉱㉲㉳㉴㉵㉶㉷㉸㉹㉺㉻㉼㉽㉾㉿ 1958年4月29日 ニューヨーク / ㉠㉡㉢㉣㉤㉥㉦㉧㉨㉩㉪㉫㉬㉭㉮㉯㉰㉱㉲㉳㉴㉵㉶㉷㉸㉹㉺㉻㉼㉽㉾㉿ 1958年12月10日 ニューヨーク / ㉠㉡㉢㉣㉤㉥㉦㉧㉨㉩㉪㉫㉬㉭㉮㉯㉰㉱㉲㉳㉴㉵㉶㉷㉸㉹㉺㉻㉼㉽㉾㉿ 1958年12月11日 ニューヨーク

スタンダードな歌曲ばかりに専念したユニークな名盤。数あるペイシー楽団の「歌もの」のなかでも、甘美なサウンドを取めたアルバムとして人気の高い1枚。



「ダンス・アロング・ウィズ・ペイシー」

Dance Along With Basie

- ①イット・ハット・トゥ・ビー・ユー／②メイキング・ウービー／③キャント・ワイ・ビー・フレンズ／④ミスティ／⑤イッツ・ア・ビティフル・セイ・グッド・ナイト／⑥ハウ・アム・アイト・ウ・ノー／⑦イージー・リヴィング／⑧フル・ス・ラッシュ・イン／⑨シークレット・ラブ／⑩グ・ウ・ミー・ザ・シンプル・ライフ

WPCR-16586  
STEREO

カウント・ペイシー (p)、ジョン・アンダーソン、サド・ジョーンズ、スヌーキー・ヤング、ジョー・ニューマン (tp)、ヘンリー・ココカー、アル・グレイ、ベニー・パウエル (tb)、フランク・ウェス (sax, fl), マッシュル・ロイヤル、ビリー・ミッチェル、フランク・フォスター、チャーリー・フォークス (sax), フレディ・グリーン (g), エディ・ジョーンズ Jr. (b), ソニー・ヘイン (ds)

【録音】①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿ 1959年12月16日 ニューヨーク / ㉠㉡㉢㉣㉤㉥㉦㉧㉨㉩㉪㉫㉬㉭㉮㉯㉰㉱㉲㉳㉴㉵㉶㉷㉸㉹㉺㉻㉼㉽㉾㉿ 1959年12月18日 ニューヨーク / ㉠㉡㉢㉣㉤㉥㉦㉧㉨㉩㉪㉫㉬㉭㉮㉯㉰㉱㉲㉳㉴㉵㉶㉷㉸㉹㉺㉻㉼㉽㉾㉿ 1959年12月28日 ニューヨーク / ㉠㉡㉢㉣㉤㉥㉦㉧㉨㉩㉪㉫㉬㉭㉮㉯㉰㉱㉲㉳㉴㉵㉶㉷㉸㉹㉺㉻㉼㉽㉾㉿ 1959年12月30日 ニューヨーク / ㉠㉡㉢㉣㉤㉥㉦㉧㉨㉩㉪㉫㉬㉭㉮㉯㉰㉱㉲㉳㉴㉵㉶㉷㉸㉹㉺㉻㉼㉽㉾㉿ 1959年12月31日 ニューヨーク

ルーレット時代のペイシーをとらえた隠れた名盤。豪華なスター・プレイヤーを率いて、ペイシー・サウンドの粋を聴かせたビッグ・バンド・ファン必携の1枚。



「アイル・テル・ユー・ホエン」

Not Now, I'll Tell You When

- ①アイル・テル・ユー・ホエン／②レア・パタフライ／③バック・トゥ・ジ・アップル／④オール・マン・リヴァー／⑤ママ・ストーン・キーン・ソフ／⑥サ・ダリー・ジャンプ／⑦ブルー・オン・ブルー／⑧スウィング・ク・アット・ザ・ウォールド・フ／⑨スウィート・アン・ド・パーティー

WPCR-16587  
STEREO

カウント・ペイシー (p)、ソニー・コロン、サド・ジョーンズ、スヌーキー・ヤング、ジョー・ニューマン (tp)、ヘンリー・ココカー、アル・グレイ、ベニー・パウエル (tb)、マッシュル・ロイヤル (as, fl), フランク・ウェス (as, ts, fl), ビリー・ミッチェル (ts, cl), フランク・フォスター (ts), チャーリー・フォークス (bs, b-cl, fl), フレディ・グリーン (g), エディ・ジョーンズ (b), ソニー・ヘイン (ds)

【録音】①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿ 1960年6月7日 ニューヨーク / ㉠㉡㉢㉣㉤㉥㉦㉧㉨㉩㉪㉫㉬㉭㉮㉯㉰㉱㉲㉳㉴㉵㉶㉷㉸㉹㉺㉻㉼㉽㉾㉿ 1960年6月9日 ニューヨーク / ㉠㉡㉢㉣㉤㉥㉦㉧㉨㉩㉪㉫㉬㉭㉮㉯㉰㉱㉲㉳㉴㉵㉶㉷㉸㉹㉺㉻㉼㉽㉾㉿ 1960年6月16日 ニューヨーク / ㉠㉡㉢㉣㉤㉥㉦㉧㉨㉩㉪㉫㉬㉭㉮㉯㉰㉱㉲㉳㉴㉵㉶㉷㉸㉹㉺㉻㉼㉽㉾㉿ 1960年6月24日 ニューヨーク

巨匠ベニー・カーターの協力を得て、ペイシーの故郷の風景を、極上のスコアとともに見事なオーケストレーションで再現したルーレット時代の傑作。



「カンザス・シティ組曲 ペイシー・プレイズ・カーター」

Kansas City Suite: The Music Of Benny Carter

- ①ヴァイン・スリート・ランブル／②ケイ・ティ・ド・③ミス・ミズリー／④ジャクソン・カウンティ・ジョビリー／⑤サンセット・クロウ／⑥ザ・ウィル・ル・ワード／⑦ミート・イン・タイム／⑧パセ・ブ・ロムナード／⑨ブルー・ファイヴ・ジャイブ／⑩ロビン・アット・ザ・リノ

WPCR-16588  
STEREO

日本初CD化

カウント・ペイシー (p)、ソニー・コロン、サド・ジョーンズ、スヌーキー・ヤング、ジョー・ニューマン (tp)、ヘンリー・ココカー、アル・グレイ、ベニー・パウエル (tb)、マッシュル・ロイヤル (as, fl), フランク・ウェス (as, ts, fl), ビリー・ミッチェル (ts, cl), フランク・フォスター (ts), チャーリー・フォークス (bs, b-cl, fl), フレディ・グリーン (g), エディ・ジョーンズ (b), ソニー・ヘイン (ds), ベニー・カーター (comp, arr)

【録音】①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿ 1960年9月6日 ロサンゼルス / ㉠㉡㉢㉣㉤㉥㉦㉧㉨㉩㉪㉫㉬㉭㉮㉯㉰㉱㉲㉳㉴㉵㉶㉷㉸㉹㉺㉻㉼㉽㉾㉿ 1960年9月7日 ロサンゼルス

「カンザス・シティ組曲」に続く、ベニー・カーターとのコラボ第2弾。スウィング時代から多才な作曲家&演奏家として知られるカーターならではの特徵あるリード・セッションにも注目したい。



「ザ・レジェンド ペイシー・プレイズ・カーター」

The Legend: From The Pen Of Benny Carter

- ①サト・ロット／②イージー・マネー／③ア・モロ／④コーン・オン／⑤ザ・スウィズル／⑥ザ・レジェンド／⑦ワース・ブルー？／⑧ターン・ア・バ・ウト

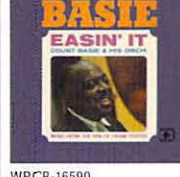
WPCR-16589  
STEREO

日本初CD化

カウント・ペイシー (p)、アル・アーロンズ、ソニー・コロン、サド・ジョーンズ、スヌーキー・ヤング (tp)、ヘンリー・ココカー、クワンテン・ジャクソン、ベニー・パウエル (tb), ベニー・カーター (as), フランク・ウェス (as), パド・ジョンソン (ts), フランク・フォスター (ts), チャーリー・フォークス (bs), サム・ハーマン (g), エディ・ジョーンズ (b), ソニー・ヘイン (ds)

【録音】①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿ 1961年10月30日 ニューヨーク / ㉠㉡㉢㉣㉤㉥㉦㉧㉨㉩㉪㉫㉬㉭㉮㉯㉰㉱㉲㉳㉴㉵㉶㉷㉸㉹㉺㉻㉼㉽㉾㉿ 1961年11月1日 ニューヨーク / ㉠㉡㉢㉣㉤㉥㉦㉧㉨㉩㉪㉫㉬㉭㉮㉯㉰㉱㉲㉳㉴㉵㉶㉷㉸㉹㉺㉻㉼㉽㉾㉿ 1961年11月2日 ニューヨーク

第2期黄金時代のメンバーのなかでも、特に才能あふれるフランク・フォスターの作品ばかりを収録した一作。ルーレット時代の最後を飾った人気盤としても知られる。



「イージン・イット ペイシー・プレイズ・フォスター」

Easin' It (Music From The Pen Of Frank Foster)

- ①イージン・イット／②ブラザリー・ショーウ／③ブルース・フォー・ダ・デ・イ・オー／④フォー・ファイヴ・シックス／⑤ミス・アンダー・ストゥッド・ブルース／⑥ママ・デウ／⑦イッツ・ア・バウト・ザット・タイム

WPCR-16590  
STEREO

カウント・ペイシー (p)、アル・アーロンズ、ソニー・コロン、サド・ジョーンズ、スヌーキー・ヤング、ジョー・ニューマン、アイト・ウ・ノー、クワンテン・ジャクソン、ベニー・パウエル (tb), マッシュル・ロイヤル (as, fl), フランク・ウェス (as, ts, fl), ビリー・ミッチェル、エリック・ティクソン (ts, fl), フランク・フォスター (ts, b-cl, bs), チャーリー・フォークス (bs, b-cl, fl), フレディ・グリーン (g), エディ・ジョーンズ、アート・テイグリス (b), ソニー・ヘイン、ルイ・ペルソン (ds)

【録音】①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿ 1960年12月14日 ニューヨーク / ㉠㉡㉢㉣㉤㉥㉦㉧㉨㉩㉪㉫㉬㉭㉮㉯㉰㉱㉲㉳㉴㉵㉶㉷㉸㉹㉺㉻㉼㉽㉾㉿ 1960年12月15日 ニューヨーク / ㉠㉡㉢㉣㉤㉥㉦㉧㉨㉩㉪㉫㉬㉭㉮㉯㉰㉱㉲㉳㉴㉵㉶㉷㉸㉹㉺㉻㉼㉽㉾㉿ 1962年7月1日 ニューヨーク / ㉠㉡㉢㉣㉤㉥㉦㉧㉨㉩㉪㉫㉬㉭㉮㉯㉰㉱㉲㉳㉴㉵㉶㉷㉸㉹㉺㉻㉼㉽㉾㉿ 1962年7月25日 ニューヨーク / ㉠㉡㉢㉣㉤㉥㉦㉧㉨㉩㉪㉫㉬㉭㉮㉯㉰㉱㉲㉳㉴㉵㉶㉷㉸㉹㉺㉻㉼㉽㉾㉿ 1962年7月26日 ニューヨーク

ラル・シフリン編曲の〈ワン・ノート・サンバ〉を始め、サド、フォスター、ウェスらの楽曲を中心に構成されたルーレット後期の名盤。くつろいだ魅力にあふれたモダンなサウンドの妙味を堪能できる。



「バック・ウィズ・ペイシー」

Back With Basie

- ①パーミット・バイブス／②サンクス・フォー・ザ・ライド／③ジ・エル・ダー／④サマー・フロスト／⑤ザ・タッチ・オブ・ユア・リップス／⑥ブルー・イッシュ・グレイ／⑦ワン・ノート・サンバ／⑧アイ・カット・イット・バッド・アンド・ザット・イント・グッド／⑨マット・ジャージー／⑩レッド・ホット・ママ

WPCR-16591  
STEREO

日本初CD化

カウント・ペイシー (p)、ソニー・コロン、アル・アーロンズ、サド・ジョーンズ (tp)、ヘンリー・ココカー、ベニー・パウエル (tb), マッシュル・ロイヤル (as, fl), フランク・ウェス、フランク・フォスター、チャーリー・フォークス (reads), エリック・ティクソン (sax, fl), フレディ・グリーン (g), ハディ・カレット (b), ソニー・ヘイン (ds), ルイ・ペルソン (ds)

【録音】1960年12月15日〜1962年7月26日 ニューヨーク

最強メンバーを擁した新世代のペイシー・バンドが、フランク・フォスターの編曲で30年代から40年代にかけての旧世代のペイシー時代の名曲を再現した豪華2枚組。



「カウント・ペイシー・ストーリー」

The Count Basie Story

- (Disc 1) ①ロード・ウェイ／②ダウン・フォー・ダブル／③レスタラー・リップス・イン／④トプシー／⑤ジャンピング・アット・ザ・ウッドサイド／⑥タップス・ミラー／⑦ショー・ティ・ジョージ／⑧ドギン・アラウンド／⑨アヴェニュー・C／⑩ジャイブ・アット・ファイブ／⑪ロッカ・バイ・ペイシー
- (Disc 2) ①スウィング・ザ・ブルース／②セント・フォー・ユー・イ・エスタ・デ・イ／③ディック・ル・ウズ／④ブルー・アンド・セン・チメンタル／⑤タイム・アウト／⑥920 スペシャル／⑦レッド・バンク・フギ／⑧エウリ・イ・タブ／⑨ディッキーズ・ドリーム／⑩テキサス・シャッフル／⑪アウト・ザ・サウンド・フ／⑫フギ・ウ・キ

WP CR-16592/3 (2枚組)  
STEREO

日本初CD化

(Disc 1) ①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿ カウント・ペイシー (p)、ソニー・コロン、サド・ジョーンズ、スヌーキー・ヤング、ジョー・ニューマン (tp)、ヘンリー・ココカー、アル・グレイ、ベニー・パウエル (tb), マッシュル・ロイヤル (as, fl), フランク・ウェス (as, ts, fl), ビリー・ミッチェル (ts, cl), フランク・フォスター (ts), チャーリー・フォークス (bs, b-cl, fl), フレディ・グリーン (g), エディ・ジョーンズ (b), ソニー・ヘイン (ds), ジョー・ウリアムス (vo) ①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿ 上記メンバーからサド・ジョーンズとビランク・フォスターが抜け、ジミー・ノット・ティンガム (tp), ビセル・ル・バウエル (tb) が加わる

【録音】①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿ 1960年6月8日 ニューヨーク / ㉠㉡㉢㉣㉤㉥㉦㉧㉨㉩㉪㉫㉬㉭㉮㉯㉰㉱㉲㉳㉴㉵㉶㉷㉸㉹㉺㉻㉼㉽㉾㉿ 1960年6月9日 ニューヨーク / ㉠㉡㉢㉣㉤㉥㉦㉧㉨㉩㉪㉫㉬㉭㉮㉯㉰㉱㉲㉳㉴㉵㉶㉷㉸㉹㉺㉻㉼㉽㉾㉿ 1960年6月14日 ニューヨーク / ㉠㉡㉢㉣㉤㉥㉦㉧㉨㉩㉪㉫㉬㉭㉮㉯㉰㉱㉲㉳㉴㉵㉶㉷㉸㉹㉺㉻㉼㉽㉾㉿ 1960年6月15日 ニューヨーク / ㉠㉡㉢㉣㉤㉥㉦㉧㉨㉩㉪㉫㉬㉭㉮㉯㉰㉱㉲㉳㉴㉵㉶㉷㉸㉹㉺㉻㉼㉽㉾㉿ 1960年6月22日 ニューヨーク / ㉠㉡㉢㉣㉤㉥㉦㉧㉨㉩㉪㉫㉬㉭㉮㉯㉰㉱㉲㉳㉴㉵㉶㉷㉸㉹㉺



黄金時代のペイシー・バンドを筆頭に、チャーリー・パーカー、レスター・ヤング、ビリー・ホリデイ、サラ・ヴォーンという当時のスターが一盤に集まった伝説のライブ。



□ カウント・ベイシー、サラ・ヴォーン、チャーリー・パーカー、ビリー・ホリデイ  
『カーネギー・ホールのバードランド・オールスターズ』

Count Basie, Sarah Vaughan, Charlie Parker, Billie Holiday / *Echoes Of An Era The Birdland All-Stars Live At Carnegie Hall*

【Disc 1】①バードランドの子守唄 / ②ユー・フォー・ミー / ③ブルース・バックステージ / ④バーティド / ⑤ザ・ソング・イズ・ユー / ⑥マイ・ファンシー・ヴァレンタイン / ⑦クール・ブルース / ⑧サ・ティーン・エイジャー / ⑨トウ・フランクス / ⑩オール・オブ・ミー / ⑪エイント・ノー・ビジネス・イフ・アイ・ドゥ / ⑫ラヴァー・カム・バック・トゥ・ミー / ⑬マイ・マン / ⑭セム・ゼア・アイズ / ⑮ラヴァー・マン

【Disc 2】①シュア・シング / ②ベニーズ・フロム・ヘヴン / ③ジャンピン・アット・ザ・ウッドサイド / ④バーティド / ⑤ホルカドッツ & ムーンビームス / ⑥メドレー: アイ・エイント・マッド〜サマータイム / ⑦サタデイ / ⑧タイム / ⑨オールド・デヴィル・ムーン / ⑩テンダー・リ / ⑪ドント・プレイム・ミー / ⑫フィナーレ

WPCR-16606/7 (2枚組)  
MONO  
日本初CD化

【Disc 1】●●●●● / 【Disc 2】●●●●●  
カウント・ベイシー・オーケストラ: カウント・ベイシー (p)、ウェンデル・カリー、レナルド・ジョーンズ、サド・ジョーンズ、ジョー・ニューマン (tp)、ヘンリー・コーカー、ビル・ヒュース、ベニー・パウエル (tb)、マーシャル・ロイヤル (as, cl)、アーニー・ウィルキンス (as, ts)、フランク・ウェス (ts, fl)、フランク・フォスター (ts)、チャーリー・フォックス (bs)、フレディ・グリーン (g)、エディ・ジョーンズ (b)、ガス・ジョンソン (ds)、ダン・テリー (tp) / Disc 1: ●●●●● / Disc 2: ●●●●●

【Disc 1】●●●●●  
チャーリー・パーカー・カルテット: チャーリー・パーカー (as)、ジョン・ルイス (p)、パーシー・ヒース (b)、ケニー・クラーク (ds)

【Disc 1】●●●●●  
ビリー・ホリデイ (vo)、カール・リンカード (p)、カウント・ベイシー・オーケストラ (ベイシー (p) 掛ける)

【Disc 2】●●●●●: D-K: サラ・ヴォーン (vo)、ジミー・ジョーンズ (p)、ジョー・ベンジャミン (b)、ロイ・ヘインズ (ds)、ベイシー・リード & プラス・セクション

【録音】1954年9月25日 ニューヨーク「カーネギー・ホール」でのライブ

## カウント・ベイシー・バイオグラフィ

Count Basie (pf, comp)  
1904~1984

デューク・エリントン、ルイ・アームストロングらと並んで、誰もが知っているジャズ史に燦然と輝く巨人。バンドリーダー&ピアニスト。1904年8月21日ニュージャージー州レッドバンクの生まれ。ミズーリ州カンザスシティで多くのジャズメンと知り合い、1936年末、ニューヨークに進出し、デッカへの録音を始めた。

1930年代末から40年代にかけてのペイシー・バンドには、フレディ・グリーン (g)、ウォルター・ペイジ (b)、ジョー・ジョーンズ (ds)をはじめ、レスター・ヤング (ts)、バック・クレイトン (tp)、“スウィーツ”エディソン (tp)といった唯一無二の個性を誇るソロイストが多数揃っていた。彼らは譜面を使わず、事前の簡単な口約束程度のヘッド・アレンジによる演奏で、最初の黄金時代を築く。

その後、戦後の不況下に入り、ペイシーは一時バンドを解散するが、50年代に入ってから復活させる。オールド・ペイシー時代からの盟友フレディ・グリーン (g)をはじめ、ジョー・ニューマン (tp)、サド・ジョーンズ (tp)、フランク・フォスター (ts)、フランク・ウェス (as, ts, fl)といったモダン世代の優れた演奏家、新進気鋭の編曲家も起用し、第二期の黄金時代を築いた。30年代末から40年代にかけての黄



▲ ジョー・ジョーンズ、ウォルター・ペイジ&カウント・ベイシー

金時代をオールド・ペイシーと呼ぶのに対し、この50年代から60年代にかけての黄金時代をニュー・ペイシーと呼ぶ。この頃のペイシー・オーケストラの人気は絶頂で、世界各地を演奏旅行で訪問するという、多忙な日々を送っていた。



▲ フランク・ウェス、マーシャル・ロイヤル、ベイシー、フレディ・グリーン、サド・ジョーンズ、フランク・フォスター

ニュー・ペイシーの時代のなかで、もっとも充実していたのは1957年から1962年にかけてのルーレット時代である。ルーレット・レコードの創設者のひとり、モーリス・レヴィーがジャズ・クラブ「バードランド」の経営者であり、ペイシーは不遇時代に「バードランド」に出演させてもらっていたことを恩義に感じていたと言われる。

ペイシーがルーレットと契約した期間は、1957年から1962年までの5年間。この間、ペイシーは絶大な信頼を寄せていたプロデューサー、ティディ・リーグと組み、さまざまな企画で、短期間のうちに多くの名演・名盤を残すことに成功する。

ニール・ヘフティと組んだ「アトミック・ペイシー」と「キュート」をはじめ、クインシー・ジョーンズと組んだ「ワン・モア・タイム」ベニー・カーターの編曲を取り上げた「カンザス・シティ組曲」や「ザ・レジェンド」をはじめ、メンバーでもあるフランク・フォスターの作品ばかりを取り上げた「イージン・イット」など、ビッグ・バンド・ファンの間ではどれも人気の高い作品ばかりである。



▲ マーシャル・ロイヤル、カウント・ベイシー、アール・ウォーレン (ベイシー楽団のOB)



▲ レスター・ヤング&カウント・ベイシー

この他、人気歌手と組んだ共演作もたくさん残した。混声コーラス・グループ(ランバート、ヘンドリックス&ロス)との共演で知られる『シング・アロング・ウィズ・ベイシー』、サラ・ヴォーン、トニー・ベネット、ビリー・エクスタインとの共演作。バンドの専属歌手だったジョー・ウィリアムスをフィーチャーした『エヴリデイ・アイ・ハヴ・ザ・ブルース』や『メモリーズ・アドリブ』、『ジャスト・ザ・ブルース』と、いずれもブルースに根ざしたベイシー・サウンドとの共演が捉えられている。

カウント・ベイシーは1984年4月26日に79歳で死去したが、その後もリーダーを変えてベイシー・バンドは継続中だ。ルーレット時代のベイシー作品は、かつてレコードで復刻されたことはあったが、一挙にCD化されるのは今回が初めて。およそ約30年ぶり、オリジナル・フォームでの復刻となる。



▲ 来日時のカウント・ベイシー  
Photo Shoji "Swifty" Sugawara

## ルーレット・レーベルについて



ルーレットは1956年にジョージ・ゴールドナー、ジョー・コルスキー、モーリス・レヴィー、フィル・カールの4人によって設立された独立系レーベル。設立当初から当時流行のツイスト、ロックンロール、R&Bといったダンス・ミュージックのヒットを数多く放った。

創設者のひとり、モーリス・レヴィーが名門ジャズクラブ『バードランド』の経営者だったこともあり、『バードランド』の常連だったカウント・ベイシーを筆頭に、当時の新人を集めたライブ録音や、人気ドラマー4人の共演盤などが残されている。

今回、一挙に復刻されるカウント・ベイシー以外のビッグ・バンドとしては、メイナード・ファーガソン名義のアルバムが残されている。その他ではハーブ・ボメロイやレイ・ペルソン、ジョニー・リチャーズらの作品も、かつて日本盤で復刻されたことがある。

トラッド系ジャズではトロンボーン奏者、ジャック・ティーガーデンの作品がある。女性歌手ではサラ・ヴォーンやダイナ・ワシントン、男性歌手ではビリー・エクスタインやジョー・ウィリアムスといった実力派揃いで、内容もバラエティに富んでいる。

ルーレットは独立系レーベルとして1970年代末まで活動した。その後1989年になってEMIへ売却されたが、2012年にユニバーサルがEMIを買収。欧州委員会が資産の一部の売却を命じたため、2013年2月にワーナーミュージック・グループの傘下となった。

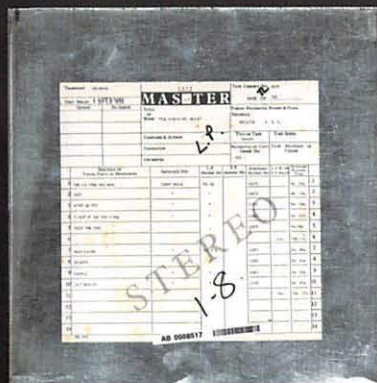


Count Basie & His Orch.  
"Basie" R-52003 LP 1958

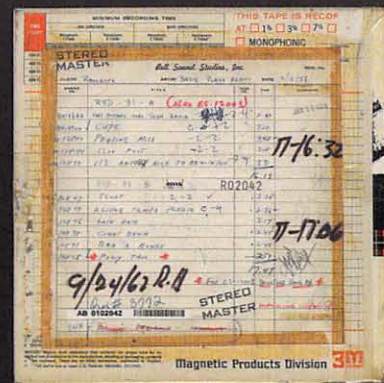


Count Basie & His Orchestra  
With the Voice of  
Joe Williams, Dave Lambert, Jon Hendricks and Annie Ross  
"Sing Along With Basie" R-52018 LP 1958

## 本シリーズで使用された貴重なオリジナル・マスター収納ケースの一部を公開!!



「アトミック・ベイシー」のステレオマスター  
(※今回の再発ではモナル・マスターを使用しております)



「キュート ベイシー・ブレイズ・ヘフティ」のステレオマスター



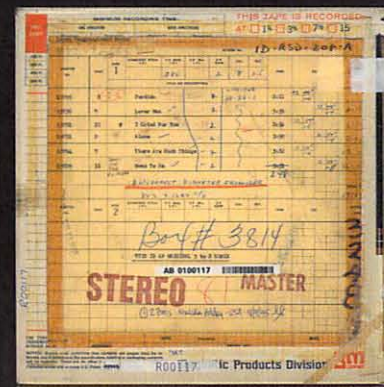
「ベイシー・アット・バードランド」のステレオマスター



「ストリング・アロング・ウィズ・ベイシー」のステレオマスター



「ベイシー&エクスタイン・インコーレイトッド」のステレオマスター



「カウント・ベイシー&サラ・ヴォーン」のステレオマスター

COUNT BASIE  
ROULETTE  
COLLECTION



COUNT BASIE AND HIS ORCHESTRA SWINGS COUNT BENNETT'S SONGS  
**BASIE/BENNETT**



Count **BASIE** and Sarah **VAUGHAN**



Count **BASIE** and **JOE WILLIAMS**



BASIE/EDMUNDS INCORPORATED



カウント・ベイシー・ルーレット・コレクション特設サイトはこちら  
<http://wmg.jp/special/countbasie/>